

夏の思い出
増量版

たっんとびくす



まちの話題や出来事を紹介します



このマークの記事は、関連写真を「市公式フェイスブック (FB)」で公開しています。



▶器と箸は青竹から子どもたちが手づくりしました。



手づくり器でそうめん流し

年間を通じて子どもたちと高齢者との触れ合いの場を設けている「地域の子どもを育てる会 (大塚町)」。8月24日には大塚交流センターで「そうめん流し会」を開催しました。より深い夏休みの思い出にしておこうと、食べるときに使う「器」と「箸」は子どもたち自らが手づくり。大塚寿会の皆さんが事前に用意した青竹を子どもたちは、手伝ってもらいながら切ったり削ったりしてマイ食器を作っていました。

岡屋沙和子さん (1年生) は「そうめんが冷たくておいしかった。口をつける器の縁は、とくにていねいに削りました」と話してくれました。



一月の輪神事の1シーン。4日間行われる神事ですが、前半は台風の影響で悪天候。その分、天気が回復した後半は前半を取り返すかのように盛り上がりました (8月16日)

今月の一枚



月山の麓で水鉄砲合戦

月山富田城跡を広く知ってもらおうと8月25日に「月山富田城跡竹水鉄砲合戦 GUNGUN SPLASH 2019」が飯梨川河川敷で行われました。

合戦のルールは、3分間で敵陣の奥の的を射抜くか、頭についたポイを射抜いて敵を減らしていき、最後に人数が多く残っているチームの勝利です。

この日は市内外から学校や職場の仲間などと結成された24チームが参加。チーム全員で一斉に敵陣を攻めたり、守りを固めたりとさまざまな戦略で合

◀攻めてきた敵のポイをめがけて水鉄砲を放ち、侵入を防ぎます。

戦を繰り広げていました。数秒で決着が付いたり時間ギリギリまでならみ合う試合になったりと各チームの作戦によって試合展開はさまざま。参加者だけでなく見物客も四方八方から水が飛び交う夏の合戦を楽しんでいました。

大学の友人と参加した福島廉志郎さんは「竹水鉄砲で的を狙うのが難しかったけど、仲間と楽しめて良かったです。また参加したいです」と話していました。





◀夏休みに親子のふれあいの時間を料理で楽しみました。

給食のメニューを親子で調理

学校給食に関心を持ってもらおうと8月6日～8日に「第24回親子料理教室」を給食センターで開催しました。調理したのはキムチチャーハンやサケのごまマヨネーズ焼きなど、給食に出てくるものの中で児童から人気のメニュー。家でも作れる人気のメニューのため、楽しんで調理ができるとの考えから選ばれました。

参加した子どもたちは、保護者やスタッフの調理師から食材の切り方などを教わりながら、料理を楽しんで作っていました。

たびいく 特急列車に乗って旅育

子どもたちに鉄道に興味を持ってもらおうと「旅育」が7月22日～9月9日の期間に行われました。

8月5日には安来保育所の園児20人が参加。駅できっぷの買い方を学んだ後、JR松江駅までの特急列車の旅を楽しみました。JR松江駅に着くと、駅舎の見学や観光列車「あめつち」のお出迎えなどを行い、鉄道の魅力を体感しました。

JR安来駅の清水駅長は「これを機に多くの子どもたちが鉄道を好きになってくれれば」と話していました。



◀駅員に券売機でのきっぷの買い方を教わる園児。



▲初めて持つ竹刀で面打ちをする参加者。

大学生剣士が子どもたちを指導

島根大学剣道部の境英俊監督と学生部員を招いた安来市少年剣道講習会が7月14日、伯太体育館で開催されました。この講習会は、子どもたちに剣道の魅力を知ってもらおうと市剣道連盟が企画。対象は経験の有無に関わらず中学生以下の子供たちで、未就学児を含む91人が参加しました。

剣道初体験の子どもたちは、初めて触る竹刀に夢中な様子。握り方を教えてもらいながら楽しそうに竹刀を振っていました。一方、日頃から剣道の稽古をしている経験者たちは、有段者である学生の指導を熱心に聞き入っていました。

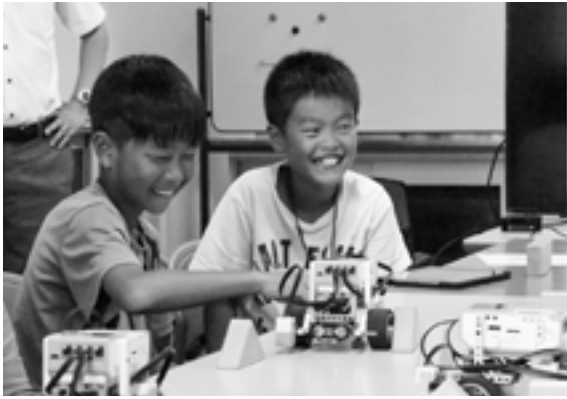
令和元年が31回目の滝まつり

「平成の名水百選」に選ばれている滝や名水を知ってもらおうと8月11日、鷹入りの滝まつりが開催されました。平成元年に始まったこのまつりは31回目。遊歩道入口の広場では、ソーメン流しやニジマスのつかみ取りなど、多くの人で賑わっていました。

一方、遊歩道を約20分進んだ先にある滝にも、涼しさを求める人たちが次々と来訪。本池みつ子さん（米子市）は「初めて鷹入りの滝に来ました。滝の下で遊んでいる子どもたちが気持ちよさそうですね。私も入りたいくらいです」と話していました。

▶猛暑の影響で水量が少ない滝で遊ぶ子どもたち。





◀プログラミングの設定が上手くできて喜ぶ子どもたち。

ITの技術を体験

安来の産業を知ってもらおうと8月6日に「やすぎ産業体験 2019」を市内で開催しました。

今年はITをテーマにロボットプログラミング体験などを行いました。参加した小学生は、超音波センサーを搭載した車のロボットをプログラミングで操作。壁にぶつかったり机から落ちたりしないようなプログラムをセットして車を安全に走行させる技術を学びました。

市内の産業に直接触れることで、子どもたちにとってはその魅力が心に残る1日となりました。

日頃のボランティア活動を紹介

市内のボランティア団体の活動を知ってもらおうと9月1日、安来商工会議所で「第9回ボランティアフェスタ」が開催されました。当日は各ボランティア団体のパネル展示やチャリティーバザー、ステージイベントなどがありました。

やすぎ女男輝り会は災害時に役立つ竹製の間仕切りを紹介。市内に多く生えている竹に注目し、災害時に役立てられないかと試験的に製作したものを披露しました。災害時にどう過ごすかは今のうちから考えなければいけないことを訴えていました。



◀竹製の間仕切りを組み立てる同会の皆さん。



◀高いブロックに阻まれながらも果敢にスパイクを打つ安来クラブの選手。見事に決まると会場からは大きな歓声が上がりました。▼バレーボール教室では、元プロ選手からの指導を真剣に聞き入っていました。



ドリームチームと対決

バレーボールを通じて地域の盛り上げを図ろうと9月8日、「はつらつママさんバレーボール in 安来」を市民体育館で開催し、854人が来場しました。

当日は、元プロバレーボール選手12人によるバレーボール教室やフレンドリーマッチなどを行いました。憧れの選手との直接対決にママさんバレーチームの選手は緊張気味。それでも普段通りのプレーをしようと声を掛け合い、試合に集中していま

した。満席となった会場からの応援もあり、荒島はあと一步のところまでドリームチームを追い詰めるなど健闘。残念ながらどのチームも勝利をつかむことはできませんでしたが、選手や観客は夢のひとつを楽しんでいました。

※安来クラブ、荒島、むつみクラブの3チームがそれぞれフレンドリーマッチに出場しました。

